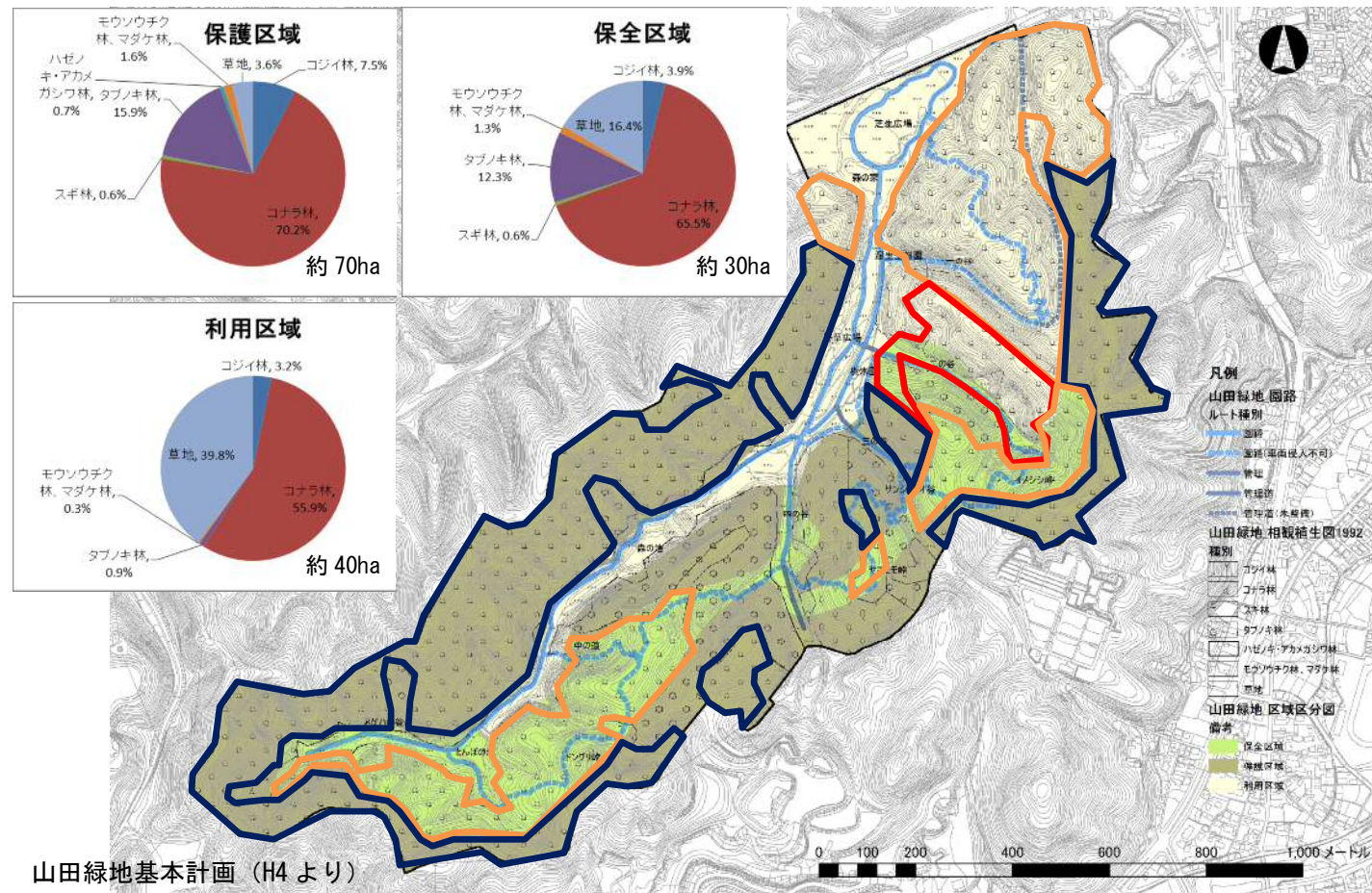


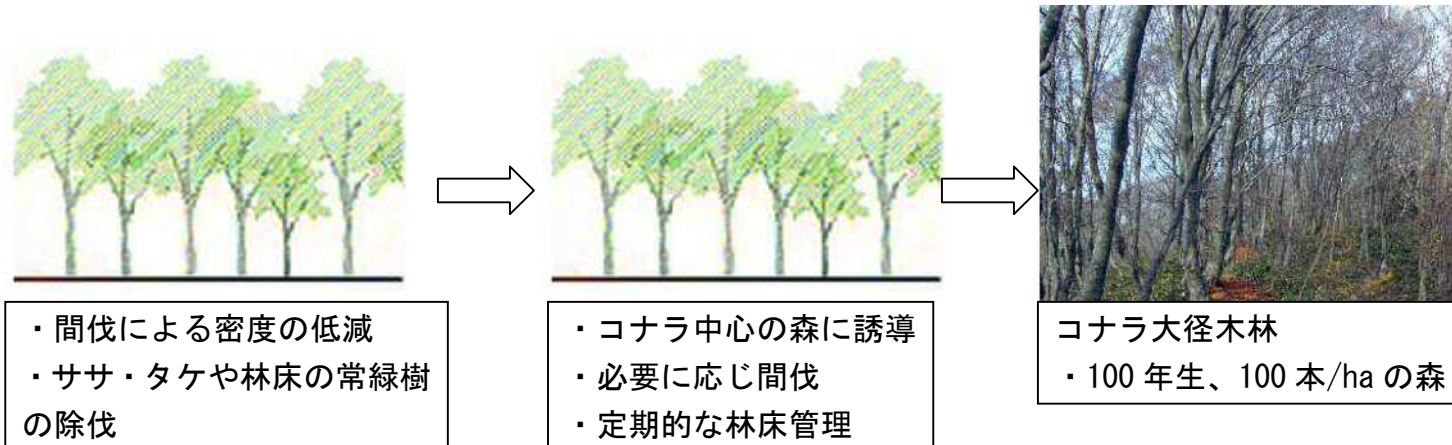
Ⅲ 長期間放置されたコナラ林の管理方針について



- コナラ大径木林⇒利用区域、保全区域で一般による作業が困難な箇所
- コナラ萌芽林、シイ・カシ萌芽林⇒利用区域、保全区域で市民参加での作業が可能な箇所
- シイ・カシ照葉樹林⇒保護区域

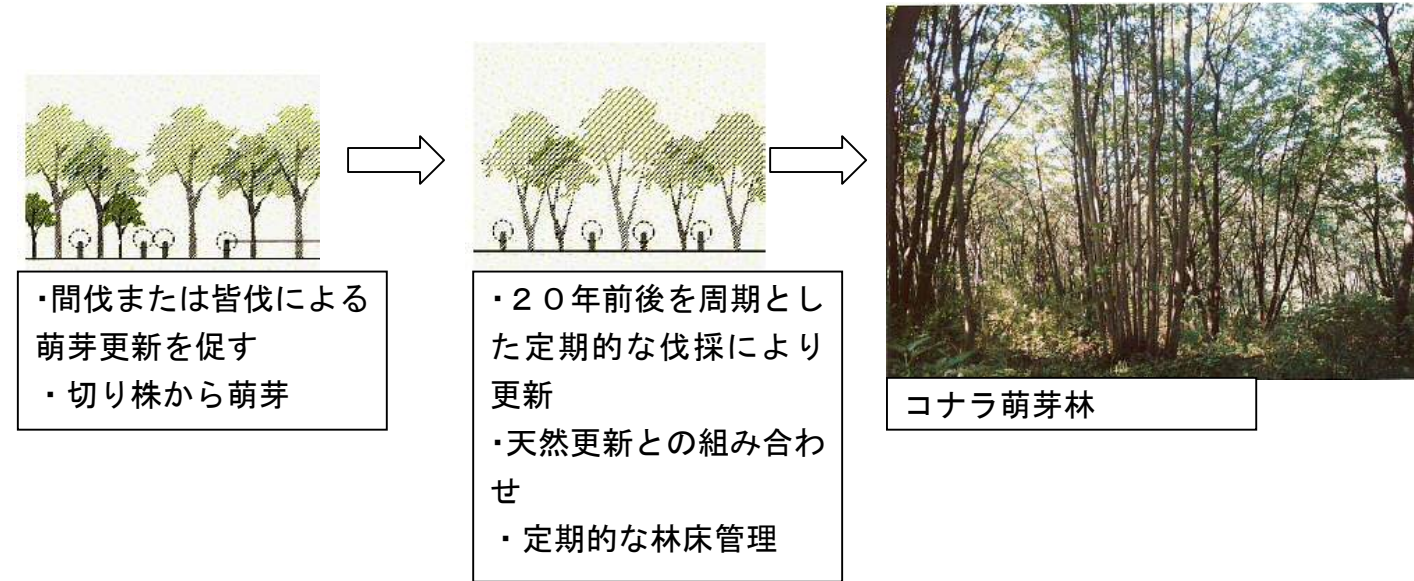
1 コナラ大径木林を目指す

里山ランドスケープとしてコナラの大径木林を目指す。森の外から見る景観は色彩豊かで、林内景観は明るく、アクティビティの高い森となる。森の印象は、柔らかく暖かいが、壮大である。100年生で100本/haの森を目指す。旧来の資源利用形態により形成されていた株立ちの萌芽林景観から、資源・環境利用を見据えた大径木の景観管理を行っていく。



2 コナラ萌芽林を目指す

歴史的に培われてきた里山ランドスケープとして、コナラ萌芽林を目指す。20年前後で皆伐更新を繰り返す。細い株立ちからなる里山の歴史景観の再現を目的とする。外景観は優しく繊細なものとなる。明るく色彩感のあるランドスケープ。



3 シイ・カシ萌芽林を目指す

2と同様であるが、すでにシイ・カシが優占しつつある林分については中央公園周辺にも見られるシイ・カシ萌芽林の形成を目指す。



4 潜在自然植生（シイ・カシ照葉樹林）を目指す

潜在的に将来遷移するであろう森に誘導する。生態的に森林の遷移を目指す。林内景観はやや暗くアクティビティは低い。森の印象は落ち着いた温かみのある空間。

